

## (8) 大北地域 ～北アルプス山麓の恵みを活かした農業農村の振興～

### 重点戦略1：地域農業を支える経営体の育成

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
農業経営の法人化数	22 組織	27 組織	25 組織	27 組織
40 歳未満の新規就農者数（単年度）	5 人	6 人	12 人	6 人
担い手への農地の集積面積	2,949ha	3,560ha	3295ha	3,800ha

#### <施策の取組状況>

- 人・農地プランの策定支援とその実践を通じた農業生産法人、新規就農者等、地域農業を支える担い手の育成
  - 人・農地プラン未策定地区の解消に向けて、該当する行政への要請と支援を行い、新たに1地区で策定されました。(26プラン→27プラン)
  - 地域の話し合いにより、担い手間で地域の農地利用に係る方向付けの見直しを支援しました。(H27:27プラン中、26プラン見直し)
  - 経営体育成支援事業による担い手の経営発展支援(1地域2経営体)と、青年就農給付金の給付による新規就農者育成支援を実施しました。(給付者21名)
  - 機構集積協力金の活用等により担い手への農地集積を推進しました。(交付対象面積152.2ha(H26=33.9ha))
- 集落の合意に基づく農地の利用集積と集落営農組織の法人化に向けた支援
  - 集落営農法人化研修会の開催支援等により、集落営農組織の法人化を支援するとともに、法人化した経営体について、米の価格低下に対応した酒米の契約栽培等の取組拡大を支援しました。(10経営体25名が参加)
  - 法人化計画の実現に向けた検討会を5回実施しました。(6組織)
- 高い技術と経営管理能力を有する経営体の育成
  - 経営管理能力の向上を図るため、青年農業者等を対象に農業セミナーを開催しました。(8回)
- 定年帰農者や女性農業者等が活躍できる体制づくり
  - 女性農業者を対象とした「アグリセミナー」を5回開催し、女性農業者等による農産物活用を支援しました。(25名受講)
- 他産業から農業参入を希望する企業に対する相談活動の実施
  - 就農促進連絡会議を開催し、市町村・JA等との情報共有等による支援体制の構築を図りました。(1回)

#### <今後の展開方向>

- 地域の話し合いによる人と農地の問題解決に向けた「人・農地プラン」の作成・見直しを支援します。
- 農地中間管理事業等の活用による担い手への農地の利用集積の推進を支援します。
- 法人化計画に基づく集落営農組織の法人化を支援します(4組織)。
- 担い手の規模拡大を支援するための農業競争力強化基盤整備事業等の実施を支援します。
- 加工・業務用野菜等の水稻プラスα(園芸作物)の導入・栽培技術修得を支援します。
- 大北版AGRIX NAGANOを活用したセミナーを開催し、若手農業者等の経営管理能力の向上を図ります。

### 重点戦略2：付加価値の高い水田農業の推進

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
水稻直播栽培面積	7.5ha	10ha	14ha	10ha
大豆の優良品種の栽培面積	0ha	105ha	105ha	100ha
信州の環境にやさしい農産物認証面積	67ha	70ha	85ha	80ha

## ＜施策の取組状況＞

- 環境に配慮した安全・安心な売れる米づくり（ブランド化の推進、温暖化・大規模化に応じた品種構成）への対応
  - 高品質米の生産に向け、気象データに基づく生育情報や適期収穫予測の情報提供（8～9月週1回）や、各種講習会を活用した適期収穫実践を支援するとともに、酒米の契約栽培に向けた研修会（1回）を開催しました。
  - 大規模化に向けた収穫適期分散のため、県オリジナル品種「風さやか」の導入（4ha）を支援しました。
  - 関係者が一体となった需要に見合った米づくりを推進しました。
- 水稲直播等による低コスト省力稲作技術の導入
  - 水稲直播栽培の課題である雑草イネ対策の周知を図るため、研修会（2回）の開催や除草剤試験ほ（2ヶ所）を設置し、育苗コストの低減に向けた水稲直播栽培を推進しました。（直播面積14ha）。
- そば、大豆、小麦等の生産安定技術の導入
  - 生産安定・品質向上につながる耕うん同時畝立て播種栽培を推進しました。（実施面積144ha）
- 実需者の評価を踏まえた大豆等の優良品種への切り替え
  - 優良品種（すずほまれ）の収量・品質向上を支援しました。（導入面積100ha）
  - 「信州ひすいそば（長野S8号）」の導入を支援しました。（栽培面積6ha）
- 耕畜連携による自給飼料（稲発酵粗飼料用稲等）の増産
  - 品質向上に向けた適期収穫指導を実施しました。（2集団・稲発酵粗飼料用稲栽培面積21ha）
  - 飼料米実証ほを設置しました。（3ヶ所）
- 南部地区の園芸振興に必要な堆肥供給体制の確立
  - 堆肥活用についての打合せ会議（1回）を開催し、関係者の情報共有及び活用方法を検討しました。
- 信州の環境にやさしい農産物認証制度を活用した環境と調和のとれた農産物の生産
  - 生産者組織を中心として巡回説明会を実施し、制度の普及に努めました。また、認証申請希望者に対し、環境にやさしい農業技術導入に向けた指導を実施しました。
- 黒豆等、地域の農業生産拡大につながる品目の生産振興
  - 地域特産物として収益確保が期待できる黒豆について、栽培技術向上等を支援し、「まつかわ福寿黒豆」という名称で北アルプス山麓ブランド認定品への支援を図りました。

## ＜今後の展開方向＞

- 酒造等事業者ニーズに着実に応える米契約栽培の拡大に向け、ニーズに見合った品質確保のための課題の把握と試験ほ設置等による課題解決支援や、酒造業者との契約栽培を志向する生産者を対象とした米品質向上技術研修会を開催します。
- 「環境＋品質」を志向する栽培者の玄米品質向上を支援します。
- 雑草イネ（赤米）対策の徹底と、育苗コストの低減に向けた水稲直播栽培を推進します。
- 北アルプス山麓ブランドや環境にやさしい農産物認証制度・長野県原産地呼称管理制度等を活用した特徴のある米の栽培推進とPRを支援します。
- 県オリジナルそば新品種「信州ひすいそば（長野S8号）」の導入・安定生産を支援します。
- 飼料米の地域内利用に向けた試験栽培・実証ほを設置し、取組拡大を支援します。
- 生産組織での認証制度の取得や多面的機能支払交付金を活用した取組を推進します。

## 重点戦略3：立地条件を活かした園芸産地づくり

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
りんご新しい化栽培面積	4ha	13ha	11ha	20ha
りんごオリジナル品種栽培面積	21ha	28ha	25ha	30ha
アスパラガス栽培面積	21ha	28ha	27ha	31ha

## <施策の取組状況>

- **フェザー苗の生産とりんご新しい化栽培の拡大**
  - M9自根苗の生産組織等への栽培技術指導と講習会を4回実施し、苗木生産技術の向上を支援しました。
  - 生育不良園において、土壌調査等を行い、要因の調査・分析を行いました。その結果について、生産振興大会等を活用して、生産者に対してフィードバックしました。
- **更新期を迎えた園地におけるりんごオリジナル品種の導入**
  - 現地講習会においてオリジナル品種の導入メリットをPRするとともに(年5回)、りんご栽培継承調査結果等に基づき更新期を迎えた「ふじ」からオリジナル品種への転換を推進しました。
- **アスパラガスの施設化による品質向上等と、水稻補完品目としての新規栽培者掘り起こし**
  - 茎枯れ病防除プロジェクトの徹底により、単収の向上を図りました。
  - JA、市町村の広報誌等による新規栽培者掘り起こしを行い、新規栽培者向けの「アスパラガスセミナー」を開講して栽培技術の習得を支援しました。(11回)
- **集落営農組織等を中心とした実需要望の高い野菜の導入や契約取引の推進、地場流通野菜の生産拡大**
  - 実需者からの要望の高いジュース用トマト及び加工業務用キャベツについて、県園芸作物生産振興協議会と連携し、集落営農組織等を対象とした広域での研修会を松川村で開催し、生産拡大を進めました。ジュース用トマトはH26:460a→からH27:491a(前年比107%)へ増加しました。
- **リンドウの新規栽培者確保とカーネーション等の出荷平準化による価格の維持**
  - リンドウの栽培技術向上検討会(2回)とトルコギキョウの秋出荷作型を検討(2回)しました。
- **ワイン用ぶどうの栽培拡大と高品質化、ワイナリーを活用した観光と農業の振興**
  - 品質の向上に向けた収穫適期情報の提供など栽培技術指導を実施しました。(5回)
- **中山間地域における山菜やベリー類、食用ほおずき等の軽量品目の導入と普及**
  - 関係機関と連携して、山うど等の栽培面積の拡大を図りました。

## <今後の展開方向>

- りんご新しい化栽培の優れた作業性・収益性・品質データを講習会等でPRし、普及面積の拡大を進めるとともに、生産者組織でのフェザー苗の育成を支援します。
- 新規栽培者の技術を高めるりんごセミナーを開催します。
- 果樹産地構造改革計画に沿う支援事業を活用して積極的な改植や計画的な新植を推進します。
- アスパラガスの茎枯れ病防除の徹底による収量向上と、新規栽培者と修了生を対象としたセミナーの開催による栽培技術の習得を支援します。
- 「大北園芸セミナー」の開催による園芸品目の基礎技術の習得を支援します。
- 水稻プラスα品目として収益を予め計算でき、実需者から要望の高いジュース用トマト・加工業務用キャベツ、玉ねぎ、白ネギ等の平坦地大規模栽培、中山間地での小規模栽培導入を推進します。
- 標高と風土を活かして高品質をねらえる夏秋トマト・夏秋いちご等施設型野菜の新たな産地形成に向けた導入を支援します。
- 農業と観光との連携強化について新設ワイナリーを核として推進します。

## 重点戦略4：北アルプス山麓ブランド等の地域振興への活用

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
北アルプス山麓ブランド認定品数	67品	92品	93品	100品
六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	0組織	8組織	5組織	11組織

## ＜施策の取組状況＞

- **北アルプス山麓の立地条件や地域の特色を活かした収益性のある新たな地域特産物（陸わさび等）の掘り起こし**
  - 陸わさびの産地化に向け、採種技術の検討・共同育苗体制の構築と、生産技術の向上を図るための現地講習会を開催しました。（陸わさび作付面積 H25:45a→H26:202a→H27:231a（前年比114%））
- **北アルプス山麓の恵みを受けて生産された北アルプス山麓ブランド認定品や農産物のPRと情報発信**
  - ホームページや食のグルメグランプリ・スタンプラリー（7月～10月）、銀座NAGANOにおける「北アルプス山麓 week」等を活用し、ブランド認定品や大北地域の農業・農村の魅力を発信しました。（グルメグランプリ参加店舗 H26:38→H27:52（前年比136%）店舗、物産展の開催（7回））
  - 北アルプス山麓ブランド認定委員会（審査会）を開催し、新規認定品として9品目が追加されました。
- **地域銘柄豚のPR（SPF豚、黒豚、小谷野豚）**
  - 北アルプス山麓ブランドを活用し、地域銘柄豚のPRを行いました。
- **他産業との連携や付加価値の高い農業生産に取り組む経営体の6次産業化に向けた支援と消費者の視点に立った商品開発**
  - 6次産業化に向け、地域推進員と連携して個別相談（7件28回）を実施しました。
- **北アルプス山麓ブランドにつながる新たな地域資源の発掘**
  - 白馬村における食用ほおずきの付加価値向上を支援し、「信州の味コンクール」において、知事賞を受賞しました。また、新たなブランド品認定への受付の機会を年1回から2回に増やしました。9品目を新規認定品としました。
- **農業・農村資源を観光者の誘客に活用するなど、観光と連携した農業の振興**
  - 農業者と観光事業者の連携を目指して「大北地域農業と観光連携会議」を設立し、学習会を開催など、お客様に地域食材の魅力を伝えるための支援を実施しました。（2回）

## ＜今後の展開方向＞

- 陸わさび（北アルプス山麓 森のわさび）の栽培技術の向上等に向けた現地講習会を開催します。
- 銀座NAGANOや商談会等に対する北アルプス山麓ブランド認定品の効果的な商品提案を支援します。
- しあわせ信州食品開発センター等を活用した新商品の開発を支援します。
- 6次産業化に向けた各種研修会の案内と個別相談を実施します。
- 食のグルメグランプリ・スタンプラリーを活用し、地域内連携による魅力発信を行います。
- 輸出志向のある生産者へ輸出先需要に対応した生産技術を支援します。

## 重点戦略5：農業・農村資源を活かした地域振興

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
農家民宿数	43戸	70戸	88戸	80戸
都市農村交流人口	22,515人	23,500人	24,546人	25,000人
農業用水を活用した小水力発電の容量	142kW	142kW	321.8kW	300kW

## ＜施策の取組状況＞

- **地域の風土や食材を活かした農家民宿や農業体験等を提供できる農家の育成**
  - 交流活動を志向する農家の掘り起こしや、農作業等の営みに直接触れる農業体験事業を検討するなど、受入態勢の整備を支援しました。
- **地元農産物の学校給食、宿泊施設等への供給量の拡大に向けた体制づくり**
  - 生産者・調理場における地元農産物利用への取り組みに向けて、栄養士への情報提供を実施しました。
- **農産物直売所等の運営能力向上や施設整備への支援**
  - 直売所等の旬の農産物情報の発信（計17回）や出荷者、直売所運営者を対象とした「直売所セミナー」

一」を3回開催し、運営能力向上、周年出荷に向けた支援を行いました。

○ **児童・一般消費者への農業体験プログラムの提供による食に対する関心と理解の醸成**

➢ 児童や一般消費者が農家との交流を通じて、実際の農作業を体験するなど、食に対する関心と理解を深める取組に関する研修会を開催しました。(3回)

○ **農業用水を活用した小水力発電による自然エネルギーの利用促進**

➢ 白馬村の平川地区において、発電所を建設しました。また、管内における小水力発電の適地調査を2か所で実施しました。

○ **生乳の地域内流通体制の構築**

➢ 地域内での生乳の利用を推進するため、流通実態を調査しました。

**<今後の展開方向>**

- 国営アルプスあづみの公園等と連携した都市農村交流を推進します。
- 農産物直売所等の旬の情報発信や「直売所セミナー」の開催を通して販売力の向上を支援します。
- 農家民泊等を対象とした地産地消につながるPRパンフレットを作成し、普及・啓発を図ります。
- 観光関係者と連携、地域の特徴ある食材等の活用に向け交流会の開催や連携イベント等の開催を支援します。
- 食に対する関心・理解を深める農家民宿等における交流体験活動を支援します。

**重点戦略6：協働活動による農村の活性化**

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
協働活動（多面的機能支払、中山間地域農業直接支払事業）による農地等保全面積	1,400ha	3,640 ha	3,540 ha	3,740ha
侵入防止柵設置延長	9km	100km	126km	100km

※協働活動による農地等保全面積は、制度変更により実績面積が増加。

**<施策の取組状況>**

○ **地域住民の協働作業による農地の保全と利用など、集落コミュニティ活動の強化による農村の活性化**

➢ 多面的機能支払、中山間直接支払の取組推進により、農地の保全、集落コミュニティ活動を支援しました。  
・内訳：多面的機能支払 3,338ha, 中山間直接支払 599ha, 重複面積：397ha

○ **集落ぐるみで行う野生鳥獣侵入防止柵の設置や追い払い活動、緩衝帯整備、捕獲活動の実践**

➢ 補助事業を活用しながら、地域住民による集落ぐるみの総合的な野生鳥獣被害防止対策の実施を支援しました。(侵入防止柵：15.7km)

○ **老朽化した農業用水利施設等の計画的な維持・更新の推進、災害を誘発する恐れのある山腹水路の補修・改修**

➢ 補助事業等を活用し、老朽化した水路の更新を実施しました。(松川村1地区、白馬村1地区)  
➢ 長野県神城断層地震により被災した農地・水路等の復旧、営農相談等による営農再開支援を行いました。  
・平成28年3月末の復旧工事進捗状況：白馬村 概ね5割, 小谷村 概ね3割  
・営農相談実績：7経営体（白馬村6経営体12回/毎月実施）、(小谷村1経営体6回実施)

○ **耕作放棄地を活用した集落ぐるみによる特色ある地域振興作物（ひまわり等）の栽培支援**

➢ JAや農産物直売所等と連携し、新たな地域振興作物として切り花用ひまわりの導入を推進しました。(H26:16a→H27:20a)

**<今後の展開方向>**

- 日本型直接支払制度の取組拡大に向け、農村集落を支援します。
- 補助事業を活用しながら、地域住民による集落ぐるみの総合的な野生鳥獣被害防止対策の実施を支援します。
- 長野県神城断層地震により被災した農地・水路等の復旧、営農相談等による円滑な営農再開を支援します。